

『色』の見え方の不思議

先天色覚多様性は男子の約5% (20人に1人)、女子の約0.2% (500人に1人)

色が全く分からないというわけではなく色によって見分けにくいことがある程度で、生活にはほとんど不自由はありません。しかし、状況によっては、いろいろ不便に感じることがあるようです。

色誤認しやすい色・環境



暗い環境下、象物が小さい場合、鮮やかさの低い中間色、また、集中力が欠如している時、疲れている時、イライラしている時などに色誤認しやすくなります。

免許の取得・職業の選択は？

運転免許については、普通自動車（第1種）の免許はほとんど取れます。

職業選択については、本人の希望・意思を尊重し、いたずらに職種を制限しないことが基本です。しかし、すべての職種に適正があるとはいえません。差別と適正を混同することなく会社の受け入れ状況、業務内容を確認することが大切です。

◇ 色覚多様性が問題となる資格試験は？

空港機乗組員、海技事者、鉄道関係などの職業運転士、警察官、自衛官、消防士など。

〔注意点〕これが全てではありません。また変更されることもありますので、その都度問い合わせが必要です。

◇ 色覚多様性がハンディとなる職種は？

印刷、塗装、繊維工業、野菜や魚の鮮度の選定など、微妙な色識別を要する職種。

参考文献：「先天色覚異常への対応」日本眼科医会色覚検査表等に関する調査研究班